

高級衣料用 つけおき洗剤を 使った洗濯方法

おしゃれ着のお洗濯は
仕上がりが心配と
あきらめていた方に
水でつけおきするだけの
カンタン洗剤!!



「高級衣料用つけおき洗剤」なら、水で洗え、つけおきするだけの
手軽さ。面倒な水温調節や押し洗いはいりません。縮みや型崩
れが防げ、洗濯機を使ってまとめ洗いもできます。この取扱説明
書をお読みいただき、カンタンお洗濯をしてください。

A 失敗しないお洗濯のために、洗えるもの、 洗えないものをお洗濯の前に必ずチェックしてください。

1 取り扱い表示をチェック!

■ 洗えないもの
家庭での洗濯不可表示がある物

※ レーヨンおよびレーヨン混紡の衣料はドライクリーニングしても収縮します。
※ 取り扱い絵表示および素材表示のないものは、洗わないでください。



この表示がある物は
洗えません。

2 素材をチェック!

洗えるもの	
ウール	シルク
●セーター ●ズボン ●マフラー ●タオルケット	●カーディガン ●ハーフコート ●毛布 ●ワンピース ●ジャケット、 ブラウス(パット付) ●レインコート
ポリエステル製品	ウール/アクリル混紡
●スカーフ ●小物	●セーター ●カーテン ●コート ●ぬいぐるみ

洗えないもの	
色どめ加工がされていないもの	色や風合いの変化しやすい素材
●和服	●レーヨン、シルク(特に色の濃いもの)
型崩れしやすいデザインの衣類	皮革製品および皮革を装着した衣類
●ブルーツスカート ●外国製のネクタイ ●裏地(レーヨン素材)付の衣類 ●デザイン刺しゅうやスパンコール などのついた衣類 ●羽毛ジャケット	●毛皮 特殊加工をほどこした衣類 ●エンボス加工 ●コーティング加工

※麻はシワになりやすく、また特に色の濃いものは色落ちしやすいので十分ご注意ください。※スカーフおよび外国製の衣類は色落ちしやすいので十分
ご注意ください。(*B お洗濯の前準備参照) ※カーテンなどは収縮する場合がありますのでご注意ください。

B お洗濯の前準備

1 洗濯物を仕分けします

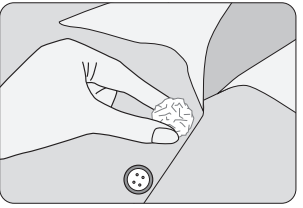
白物と色・柄物や色のつきやすい物は、仕分けしてか
ら洗ってください。いったん色移りしてしまうと元に戻り
ません。

2 色落ちを確認します

色落ちしそうな物は、その部分の下に白タオルを敷き、原
液を別の白タオルに含ませ、強く押さえるようにして色落
ちするか確認します。

3 ボタンのチェックをします

色落ちしそうなボタンおよび木製などのボタンは、あらかじ
め取っておくか、アルミホイルなどでしっかりくるんで洗濯
してください。



C シミや部分汚れの前処理

1 前処理の方法

シミがきたら早く処理することがなにより肝心です。
時間が経つと変化して落ちにくくなります。

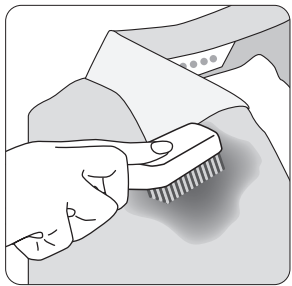
こんなシミや汚れは落ちません

- シミになって日数が経ったもの
- カビ・鉄サビ・墨汁・
インキなどの汚れ
- パーマ液など化学
変化したもの
- アイロンなどで熱を
加えたもの
- 日光で黄変・変色したもの

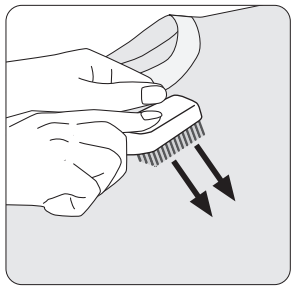
2 油汚れ・泥はね・襟や袖口の汚れの取り方

汚れの部分に洗剤の原液をつけて1〜2分おき、水を含ませたブラシで軽くこするか、たたいて落とします。シルク素材などは、カット綿もしくは柔らかい布でシミ抜き
をしてください。

●輪ジミをつくらないために、最初にシミの部分のまわりの生地を水でぬらし
てから、「高級衣料用つけおき洗剤」をつけます。



●シミの裏に白タオルを当て、ブ
ラシまたは布に水をつけ、洗剤
の原液をつけて軽くこするか、
たたき、タオルにシミを移して取
り除きます。



●ブラシは素材の目に対して一
定方向に動かします。強くかけ
過ぎると色落ちすることもありま
すので、ご注意ください。

D 洗剤液の作り方

1 水30Lに洗剤5プッシュ(15ml)が基本

水30Lに対して、「高級衣料用つけおき洗剤」を5プッシュ(15ml)、軽くかきまぜます。洗面
器の場合は水2Lに対して約1ml(数滴)を加えます。

■洗剤使用量 の目安	ドラム式(洗濯物量)	タテ型(水量)	プッシュ回数 (1プッシュ=約3ml)
	4.5kg	60L	10回(30ml)
	3kg	45L	8回(24ml)
	1.5kg	30L	5回(15ml)

【手洗い】水6Lに対してプッシュ回数:1回(3ml)

※洗剤の使用量を多くしても汚れ落ちにはあまり差はありません。逆にすぎに時間がかかり、生地を傷め
る原因になりますので必ず使用量の目安にそってご使用ください。

2 必ず水を使ってください

お風呂の残り湯やぬるま湯などを使わないで、必ず水を使ってください。ウールやシル
クなどの天然素材は、お湯で洗うと繊維が膨張しやすくなり、乾燥後に縮みがひ
どくなることもあります。

洗剤液30Lに洗濯物1.5kgが目安

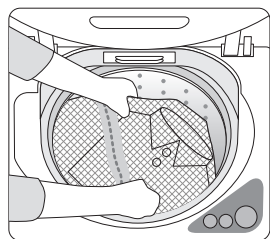
●セーター・ブラウスなら…4〜5枚 ●ジャケットなら…2〜3枚 ●毛布・カーテンなら…1枚

E お洗濯の基本的手順（洗濯機を使う場合）お洗濯前のチェックや前処理をお忘れなく！！

1 つけおき洗い（15～20分）〈絹・麻の場合は、5分〉

衣類をきれいにたたみ、Dの洗剤液の中につけこみます。型崩れしやすい衣類や洗濯枚数が少ない場合は、洗濯用ネットに入れると便利です。

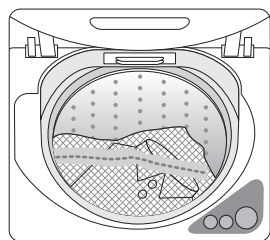
※最終の脱水までたたんだままにしておきます。
※標準時間以上つけおきしても汚れ落ちにはあまり関係なく、生地によっては傷み・縮みの原因になります。
※長時間つけおきしたり、つけおきしている間に洗濯機をまわしたり押し洗いはしないでください。



2 脱水（10～20秒）

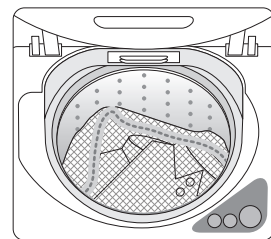
排水後、衣類をたたんだまま10～20秒（生地によって若干変わります）脱水した後、衣類を取り出します。

※過剰脱水は脱水ジワの原因となりますのでご注意ください。
※脱水ジワをつくらないコツは、水が垂れない程度に脱水時間をとどめておき、きれいにたたんで脱水することです。
※シルクの場合は、乾いたバスタオルにくるんでタオルドライをすると、きれいに仕上がります。



3 つけおきすすぎ（1分）

洗濯機に新しい水を入れ、衣類をたたんだまま静かに水の中に沈めます。このとき、たたんだ衣類の間にも水が行きわたるようにしてください（洗濯機は決して回さないでください）。



4 脱水（10～20秒）

1回目と同じ要領で短時間の脱水をします。

5 つけおきすすぎ（1分）

1回目と同じ要領でつけおきすすぎをします。

6 脱水（10～20秒）

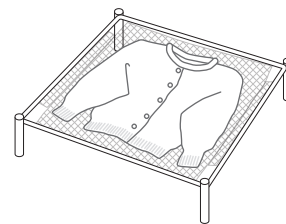
1回目と同じ要領で短時間の脱水をします。

※通常は2回すすぎですが、カーテン、毛布などの大きな物の場合は、脱水後さらにもう一度新しい水を張りなおして、つけおきすすぎ、脱水をしてください。

7 乾燥（陰干し）

形を整え陰干しします。直射日光は黄変・変色の原因となります。

※衣類乾燥機やストープなどを使って乾燥させることは、絶対におやめください。
※小ジワは、両手ではさみ、たたいて伸ばします。型崩れしやすい肩の部分や襟ぐりは、ハンガーにタオルをまいて、きれいに形を整えて干します。

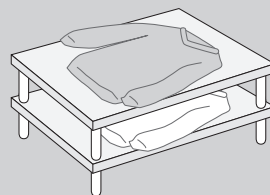


衣類に合わせた干し方

●セーターは平干しに。

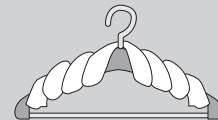
平干しネットなどを用意し、タオルなどで水気を切った後、形を整え、平干しネットなどのうえに広げて陰干しします。

※平干しネットがない場合、板や浴槽のふたでも代用できます。



●ブラウス・ジャケットは吊し干しに。

衣類にハンガーのあとを残さず、また型崩れを防ぐために、ハンガー上部にタオルを巻いて干します。

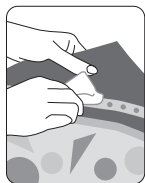


F 洗面器を使って小物を洗う場合（スカーフなど）

スカーフなどの小物は、大きめの洗面器を使用し、水2Lに対して「高級衣料用つけおき洗剤」約1ml（数滴）を加えた洗剤液を作ります。

1 前処理

シミがある場合は、まずカット綿に水をつけ、次に洗剤の原液をつけて軽くたたいて落とします。



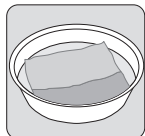
2 つけおき洗い（3分）

洗剤液の中につけこむか振り洗います。



3 つけおきすすぎ

きれいな水のなかを1～2回くぐらせて丁寧にすすぎます。



4 タオルドライ

バスタオルを二つ折りにしてはさみ、ギュッと押して水分を押し取ります。



5 仕上げ

タオルドライしたら、すぐにアイロンをかけて、形を整えます。



ご注意

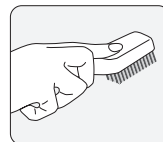
スカーフなどは色止め加工されていないものが多く、色落ちする場合があります。洗う前に、スカーフの端に水をつけて試してください。また、洗濯中に色落ちしたものは、アイロンをかけたときにアイロン台に色が移る場合がありますので、ご注意ください。

G 大物を洗う場合（毛布・コタツ掛け・カーテン）

浴槽などを利用する場合は、水200Lに対して「高級衣料用つけおき洗剤」100mLの割合で洗剤液を作ります。

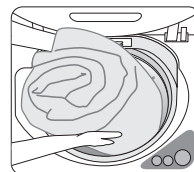
1 前処理

馬毛素材など柔らかい毛のブラシを使い、毛並みに沿って一定方向にブラッシングし、ホコリなどを除きます。シミの部分を水でぬらした後、ブラシに「高級衣料用つけおき洗剤」原液をつけて、軽くこする、たたいて落とします。



2 つけおき洗い（20～30分）

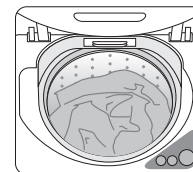
水の量は洗濯物が浸る程度にし、きれいにたたんだ状態でつけこみます。その際、2～3回押して十分に空気抜きをしてください。



※毛布などはびょうぶ折りにたたみ、軽く丸めてつけおきます。
※コタツ掛けなどは空気抜きながらゆっくりたたみましょう。
※カーテンの金具は取り除いておきます。

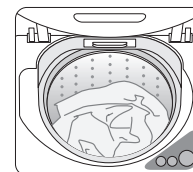
3 つけおきすすぎ

洗剤液を排水し、新しい水を入れ、たたんだまま丁寧にすすぎます。



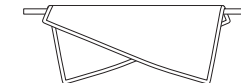
4 脱水

洗濯機を利用する場合は、10～20秒脱水してください。浴槽の場合は、自然排水します。



5 仕上げ

●毛布・コタツ掛け…三角干し
水切りを早くするため、物干しに三角に干します。



●カーテン…室内干し
汚れがつかないように窓ガラスを拭いてから、金具を取り付け、カーテンレールに掛けて乾かします。

※カーテンは縮む場合があります。特に、レーヨン混紡製品は注意が必要です。

